

# CASBEE<sup>®</sup>-戸建(新築)SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-戸建(新築)2021年SDGs対応版 ■使用評価ソフト: CASBEE-DH\_NC\_2021SDGs(v1.1)

1-1 建物概要			1-2 外観		
建物名称		仕様等の確定状況	建物の仕様	外観パース等 図を貼り付けるときは シートの保護を解除してください	
竣工年月	2027年4月	持ち込み家電等	外構の仕様		
建設地		<備考>			
用途地域					
省エネルギー-地域区分	地域				
構造・構法		評価の実施日			
階数		作成者			
敷地面積	150㎡	確認日			
建築面積	80㎡	確認者			
延床面積	200㎡				
世帯人数					

2-1 戸建の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果																								
<p><b>BEE 0.6</b> ★★☆☆☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>★☆☆☆☆</p> <p>~0%: ★★★★★ ~50%: ★★★★★ ~75%: ★★★★★ ~100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>戸建標準計算</p> <p>①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外のオンサイト手法 ④上記+オフサイト手法</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な住宅(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<table border="1"> <tr><td>3(保健)</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>4(教育)</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>5(ジェンダー)</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>6(水・衛生)</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>7(エネルギー)</td><td>2.0</td></tr> <tr><td>8(経済・雇用)</td><td>2.5</td></tr> <tr><td>9(イノベーション)</td><td>3.0</td></tr> <tr><td>11(都市)</td><td>1.9</td></tr> <tr><td>12(生産・消費)</td><td>1.6</td></tr> <tr><td>13(気候変動)</td><td>1.3</td></tr> <tr><td>15(陸上資源)</td><td>1.3</td></tr> <tr><td>17(実施手段)</td><td>1.3</td></tr> </table> <p>* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています</p>	3(保健)	2.0	4(教育)	2.5	5(ジェンダー)	2.5	6(水・衛生)	2.5	7(エネルギー)	2.0	8(経済・雇用)	2.5	9(イノベーション)	3.0	11(都市)	1.9	12(生産・消費)	1.6	13(気候変動)	1.3	15(陸上資源)	1.3	17(実施手段)	1.3
3(保健)	2.0																									
4(教育)	2.5																									
5(ジェンダー)	2.5																									
6(水・衛生)	2.5																									
7(エネルギー)	2.0																									
8(経済・雇用)	2.5																									
9(イノベーション)	3.0																									
11(都市)	1.9																									
12(生産・消費)	1.6																									
13(気候変動)	1.3																									
15(陸上資源)	1.3																									
17(実施手段)	1.3																									

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア= 3.0</p> <p><b>Q1 室内環境を快適・健康・安心にする</b> Q1のスコア= 3.0</p> <p>暑さ・寒さ 健康と安全・安心 明るさ 静かさ</p>		
<p><b>Q2 長く使い続ける</b> Q2のスコア= 3.0</p> <p>長寿命に対する基本性能 維持管理 機能性</p>		
<p><b>Q3 まちなみ・生態系を豊かにする</b> Q3のスコア= 3.0</p> <p>まちなみ・景観への配慮 生物環境の保全と創出 地域の安全・安心 地域の資源の活用と住文化の継承</p>		
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア= 1.7</p> <p><b>LR1 エネルギーと水を大切に使う</b> LR1のスコア= 1.2</p> <p>総合的な省エネ 水の節約 維持管理と運用の工夫</p>		
<p><b>LR2 資源を大切に使いゴミを減らす</b> LR2のスコア= 2.3</p> <p>省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用 生産・施工段階における廃棄物削減 リサイクルの促進</p>		
<p><b>LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する</b> LR3のスコア= 1.7</p> <p>地球温暖化への配慮 地域環境への配慮 周辺環境への配慮</p>		

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
Q1 室内環境を快適・健康・安心にする	Q2 長く使い続ける	Q3 まちなみ・生態系を豊かにする
LR1 エネルギーと水を大切に使う	LR2 資源を大切に使いゴミを減らす	LR3 地球・地域・周辺環境に配慮する

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (環境品質)、L: Load (環境負荷)、LR: Load Reduction (環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (環境効率)  
 ■CASBEE全体の表記ルールに従えば、CASBEE-戸建(新築)の場合、BEE<sub>H</sub>、Q<sub>H</sub>、LR<sub>H</sub>などとするべきであるが、本シート上では簡略化のためHを省略した  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは住宅の部材生産・建設から居住、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量であり、ここでは住宅の寿命年数と延床面積で除した値を示す  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q<sub>H</sub>2、LR<sub>H</sub>1中の住宅の寿命、省エネルギーなどの項目の評価結果から自動的に算出される(「戸建標準計算」の場合)  
 ■ライフサイクルCO<sub>2</sub>の算定条件等については、マニュアルおよび「CO<sub>2</sub>計算」シートを参照されたい

# CASBEE® - 建築(新築) 2021年SDGs対応版

# 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称		階数	
建設地		構造	SRC造
用途地域	商業、防火	平均居住人員	0人
地域区分	6地域	年間使用時間	0時間/年(想定値)
建物用途	事務所,物販店,飲食店,ホテル,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2027年2月 予定	評価の実施日	2022年2月1日
敷地面積	10,000 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	5,000 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	50,000 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 2.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 83%  
③上記+②以外の 83%  
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.3
4(教育)	2.3
5(ジェンダー)	2.3
6(水・衛生)	2.2
7(エネルギー)	2.2
8(経済・雇用)	2.3
9(イノベーション)	2.2
11(都市)	2.0
12(生産・消費)	2.4
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	1.5
17(実施手段)	2.3

\* SDG1,2,10,14,16は他のゴールに集約されています

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.6

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.7

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.7

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.6

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.3

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# CASBEE®-不動産【オフィス】 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-不動産【オフィス】(2021年SDGs対応) v1.1

建物概要		敷地面積		評価の段階	
建物名称	〇〇ビル	〇〇〇	m <sup>2</sup>	評価の段階	運用段階評価
建設地	〇〇県〇〇市XXXXXX	建築面積	〇〇〇	評価の実施日	20XX/XX/XX
用途地域	商業地域、防火地域	延床面積	m <sup>2</sup>	作成者	〇〇〇
建物用途	事務所	階数	地上〇〇F	不動産評価員番号	〇〇〇
竣工年月	19XX/XX/XX	構造	RC造	確認日	20XX/XX/XX
直近の大規模改修実施年月	20XX/XX/XX	平均居住人員	XXX	確認者	〇〇〇
		年間使用時間	XXX	不動産評価員番号	〇〇〇

評価結果		S ランク:★★★★★		78	
#DIV/0!	/100	合計	A ランク:★★★★	66	
(得点 / 満点)			B+ランク:★★★	60	
			B ランク:★★	50	

ポイントは小数点第1位までの表示とする

### 1. エネルギー/温暖化ガス

評価	最大加点	必須項目	指標 (*は参考値)	評価値
		必須項目: 省エネルギー基準への適合、目標設定、モニタリング、運用管理体制		
	25	1.1 使用・排出原単位(計算値)	一次エネルギー(目標値)	MJ/m <sup>2</sup> ・年
	5	1.2 使用・排出原単位(実績値)	一次エネルギー(計画値)	MJ/m <sup>2</sup> ・年
			二次エネルギー(*)	kWh/m <sup>2</sup> ・年
			CO2排出量(*)	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
	0	1.3 省エネルギー(仕様評価)	一次エネルギー(実績値)	MJ/m <sup>2</sup> ・年
	5	1.4 自然エネルギー	二次エネルギー(*)	kWh/m <sup>2</sup> ・年
			CO2排出量(*)	kg-CO <sub>2</sub> /m <sup>2</sup> ・年
0.0	35	合計	利用率	%

### 2. 水

評価	最大加点	必須項目	指標	評価値
		必須項目: 目標設定、モニタリング、運用管理体制		
	5	2.1 水使用量(計算値)	水使用量(目標値)	L/m <sup>2</sup> ・年
	0	2.2 水使用量(仕様評価)	水使用量(計画値)	L/m <sup>2</sup> ・年
	5	2.3 水使用量(実績値)	水使用量(実績値)	L/m <sup>2</sup> ・年
0.0	10	合計		

### 3. 資源利用/安全

評価	最大加点	必須項目	指標	評価値
		必須項目: 新耐震基準への適合またはIs値、If値		
0.0	5	3.1 高耐震・免震等	なし	
		3.1.1 耐震性	3.1.1と3.1.2の点数の高い方で評価	
		3.1.2 免震・制震・制振性能		
5.0	5	3.2 再生材利用率・廃棄物処理抑制		
		3.2.1 再生材利用率	①と②の平均で評価する	
		① 躯体材料		
		② 非構造材料	リサイクル材品目数(非構造材)	品目
		3.2.2 廃棄物処理抑制	評価しない	
	5	3.3 躯体材料の耐用年数	経過年数+今後の想定耐用年数	年
#DIV/0!	5	3.4 主要設備機器の更新必要間隔/設備の自給率向上/維持管理	1.3.4.2.3.4.3の平均	
		3.4.1 主要設備機器の更新必要間隔	更新年数の平均値	年
		3.4.2 設備(電力等)の自給率向上	自給率向上の取組数	項目
		3.4.3 維持管理	維持管理に関する取組数	ポイント
		3.4.4 バリアフリー対策		
#DIV/0!	20	合計		

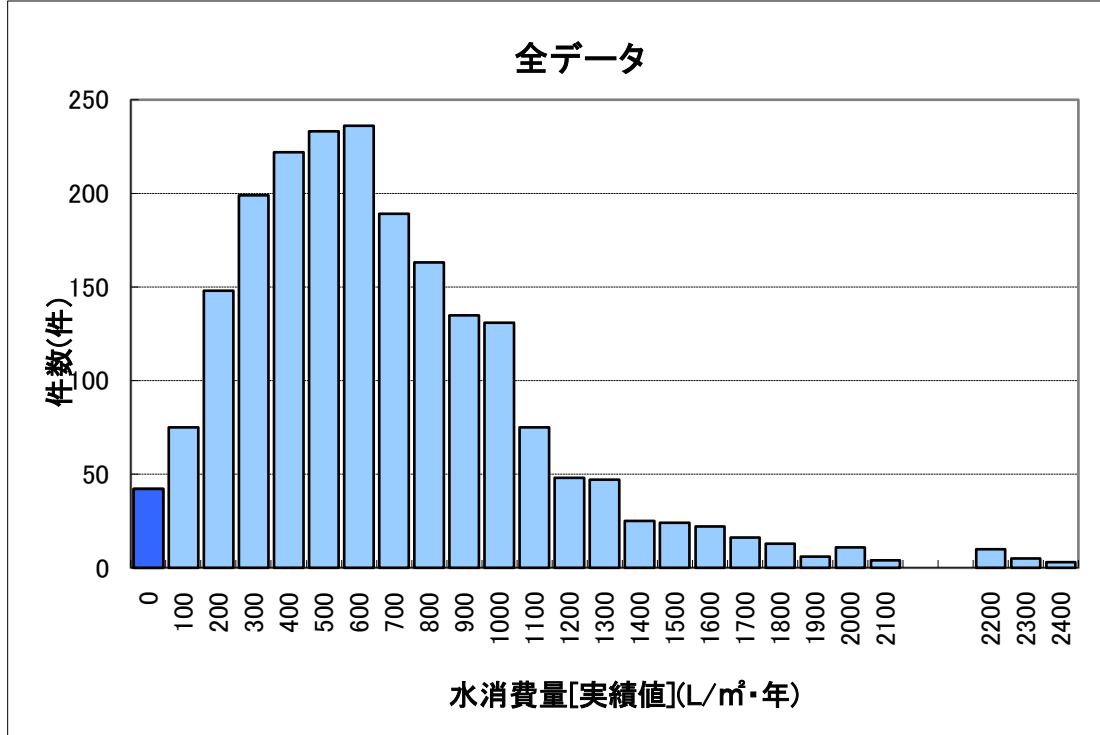
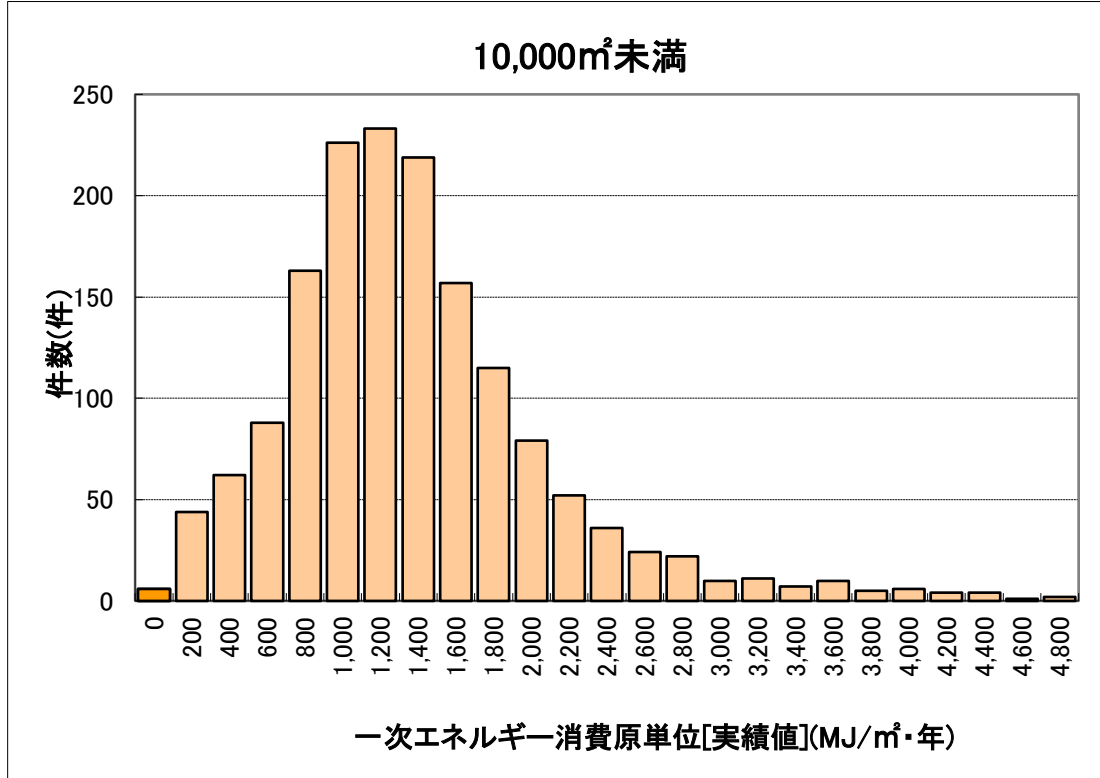
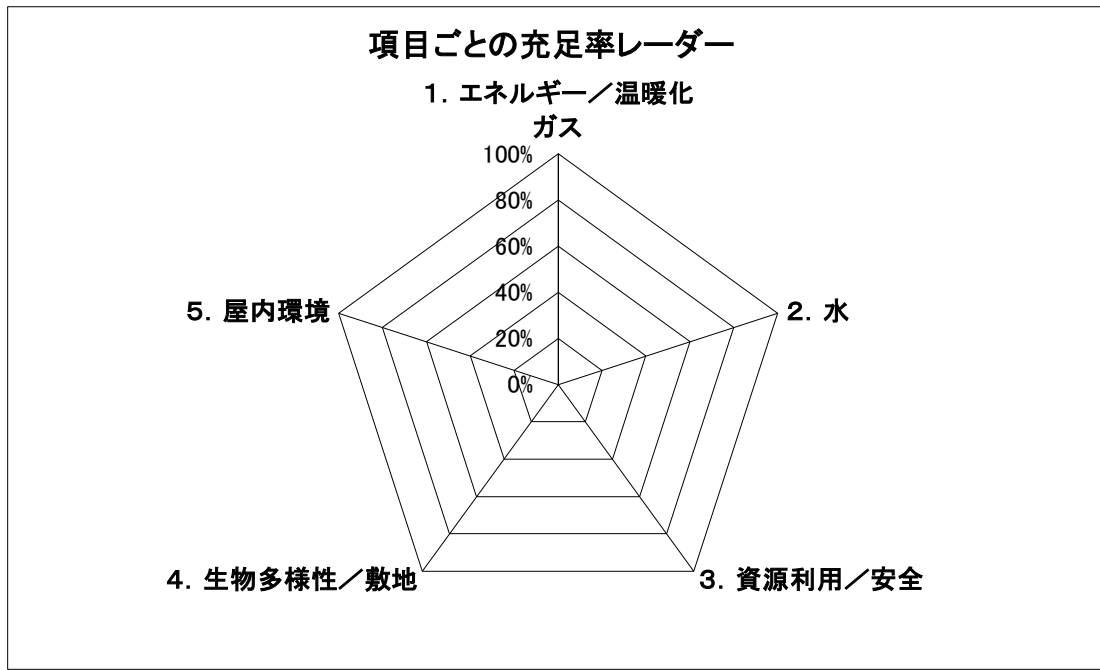
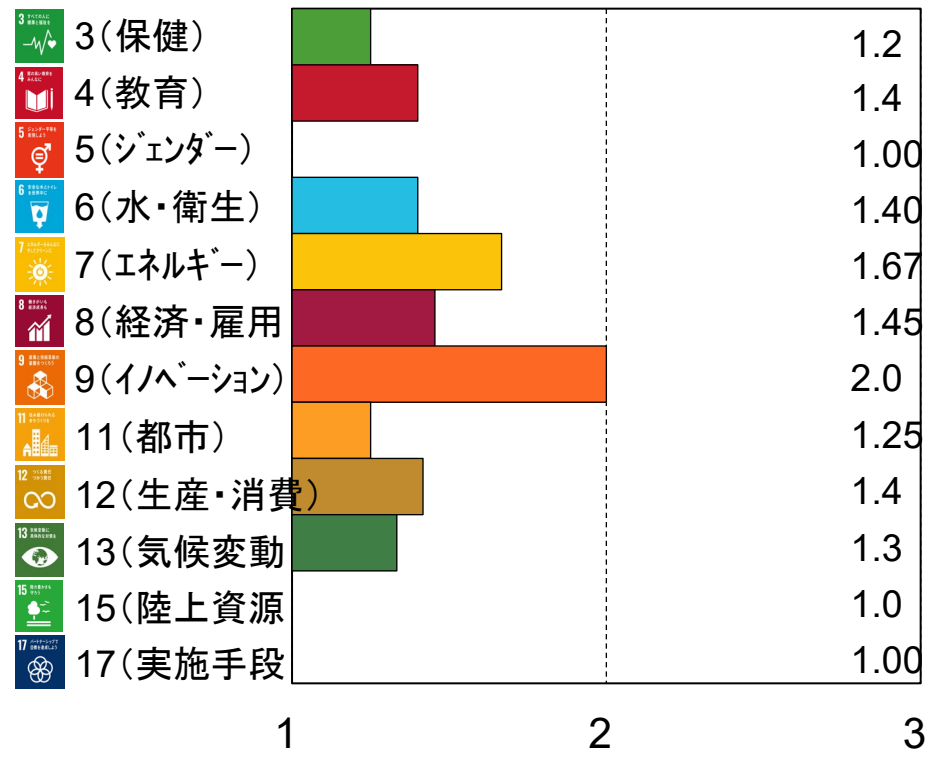
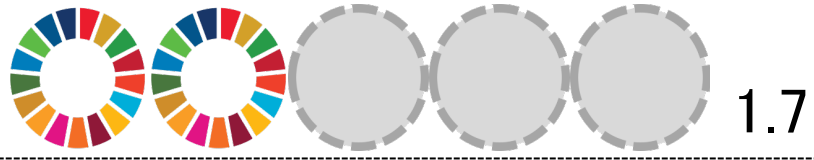
### 4. 生物多様性/敷地

評価	最大加点	必須項目	指標	評価値
		必須項目: 特定外来生物・未判定外来生物・生態系被害防止外来種を使用しない		
	5	4.1 生物多様性の向上	なし	
		4.2 土壌環境品質・ブラウンフィールド再生	②取組表による場合のポイント数	ポイント
	5	4.3 公共交通機関の接近性	なし	
		4.3.1 公共交通機関の接近性	鉄道駅またはバス停からの距離	分圏内
		4.3.2 交通結節点への接近性、敷地周辺への配慮	評価しない	
	5	4.4 自然災害リスク対策	リスクの合計数	種類
#DIV/0!	20	合計		

### 5. 屋内環境

評価	最大加点	必須項目	指標	評価値
		必須項目: 建築物衛生管理基準の準拠または質問票への適合		
0.0	5	5.1 昼光利用	5.1.1の点数×2/3+5.1.2の点数×1/3	
		5.1.1 自然採光	開口率	%
		5.1.2 昼光利用設備	昼光利用設備	種類
	5	5.2 自然換気性能	自然換気有効開口面積	m <sup>2</sup>
	5	5.3 眺望・視環境	天井高	m以上
0.0	15	合計		

建築環境SDGsチェックリスト評価結果



環境性能の特徴